愛媛新聞　2018年(平成30年)5月11日　金曜日

内子バイオマス発電所の起工式で
くわ入れなどをする関係者
＝10日午前、内子町寺村

バイオマス発電へ第一歩

内子で施設起工式　11月稼働へ

木質ペレット製造の内藤鋼業（内子町五十崎）と新エネルギー発電に取り組むシン・エナジー（神戸市）などが出資・設立した内子バイオマス発電合同会社（内子町寺村）が計画する木質バイオマス発電施設「内子バイオマス発電所」の起工式が10日、内子町寺村の建設予定地であった。関係者約30人が工事の安全を祈願した。11月に発電を開始する予定。

計画では、発電所の敷地は町森林組合の小田原木市場や内藤鋼業の木質ペレット工場に隣接する約800平方㍍で、町が有償貸与。ドイツと米国製の発電設備計7基を備え、定格出力は1115㌔㍗。建設工事の総事業費は約12億円。

燃料となる原木は地元産の間伐材や低質材を活用し、町森林組合や地元林業事業者が内藤鋼業に供給。同社が木質ペレットに加工し、発電所に供給する。発電所では、年間約5700㌧の木質ペレットを消費し、年間発電量約883万㌔㍗時を見込む。うち約811万㌔㍗時を送電する。一般家庭約2500世帯分の年間電力消費量に相当し、四国電力に全量売電する。

合同会社の発電所長を務める内藤鋼業の内藤昌典社長は「地元産の未利用材を生かしたエネルギーの地産地消につなげ、林業活性化や関連産業を含む地域振興を目指したい」とビジョンを描いた。起工式では、施主代表者らがくわ入れなどを行った。（門田龍二）